

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（6月定例会）
開催日時	令和8年6月26日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎3階会議室
出席者	委員：川原議長、松本副議長、斉藤委員、伊尻委員、小野委員、岩穴口委員、山本委員、大宮委員、河野委員、高橋委員、田口委員 事務局：古川地域学習推進課長、鬼頭地域学習推進係長、野田主任、石島主事
議題	（1）今後の活動について
配付資料	
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
議題（1）今後の活動について ●事務局より、今回6月の定例会は、前回の会議から引き続き、現役世代の生涯学習の課題について委員各位には自身の活動や実体験、文献調査などを通じて感じたことなどについて発表頂くことを説明。 ●議長：事務局から説明があった通り、委員各位には前回に引き続き一人ずつ発表をして頂きたい。 <委員の発表⑤> ○委員： ＜概要＞ ・子育て世代の生涯学習の課題について、公民館の講座を受講し、保育士としても公民館で働いていた経験をふまえて発表をする。 <課題に感じたこと> ・西東京市の公民館では、子育て世代の学習権の保証を出発点とし、子育て世代向けの保育付き講座が充実している。しかし、受講者がその後職場復帰するなど定期的に集まるのが難しく、受講後の参加者たちのサークル化が難しくなっている。 ・また、受講者の目的が、仲間や知り合いを求めてというよりも、自身のスキルアップを目指すためなど、段々と利用目的が移り変わっている。 ・職員に話を聞くと、サークル化が難しくなっている中で、毎週集まるのではなく、気軽に参加できるような「緩い」繋がりを目指しているとのこと。 ・内閣府の「社会意識に関する世論調査」を見ると、「地域での付き合いの程度」への回答については「付き合っていない」の割合が、年代が若くなるにつれ増えている。 ・このような、地域との付き合いを求めている人をどう繋げていくかが課題だと思う。それには地域のお祭りなどにおいて、密接な繋がりではなく、緩い繋がりを構築していくと良いと考える。	

<委員の発表⑥>

○委 員：

<概 要>

- ・私は防災アドバイザーとして講座の講師を務めており、地域コーディネーターとしても活動している。その活動の中で感じた、子育て世代の生涯学習の課題について発表する。

<課題に感じたこと>

- ・保育付き講座を開催したことがあるが、受講者たちがその後サークル化していないことが実態としてある。これは現場の職員の方々も課題として認識している。
- ・大抵の保育付き講座は平日の午前中に実施しており、受講者も子どもたちも食事のため皆早く帰ってしまう。そこで、受講者にお昼を持参してもらい、講座終了後も数時間延長して受講者と話をするという取組も行ったが、それでもサークル化には至らなかった。
- ・ただ、保育付き講座があるからこそ、受講者も集まることができ、職場に復帰する一助になったと考えるので、こういった場づくりは重要であると考えます。
- ・また、活動の中で受講者たちと連絡を取り合うことになり、講座終了後にしばらくして講座情報を伝えたところ、こういった情報に触れる機会がなくなっていたと返事があった。行政もSNSを活用しているが、どのようにして確実に情報を届けるかも課題だと思う。
- ・他には、親同士で仲良くなれないという話も増えているように感じる。親同士の仲を取り持つような人がいれば、関係も変わるのではないかと考える。
- ・また、地域コーディネーターとして活動する中で、学校のPTAが少なくなっていることを肌で感じている。PTAの実態については一度データで把握したいと考える。
- ・PTAに参加しない方に話を聞くと、手伝い程度の協力であれば可能だが、ある程度時間を割いて参加となると難しいという話を聞く。

<委員の発表⑦>

○委 員：

<概 要>

- ・私はPTAにて活動した後、地域の育成会にて活動を続けている。その活動の中で、子育て世代や子育てが落ち着いて時間ができた世代について、どうすれば一緒に地域活動をする仲間を増やすことができるかという視点で検討した結果について発表をする。

<課題に感じたこと>

- ・コロナ禍をきっかけに育成会の行事が3、4年ほど中止となり、その後も再開していない。地域を巻き込んだ活動が止まっており、動けるメンバーも少なくなっている。
- ・PTAの集まりに育成会として参加しているが、ここ数年でPTAの雰囲気が変わっており、PTAの課題の解決について、親主体ではなく、行政や育成会に解決を委ねることが増えている。
- ・PTAが無くなりつつある中で、学校で起きた問題を解決する場も少なくなっている。
- ・問題解決の経験が少ない保護者たちに対して、以前は直接会って話す機会もあったが、最近は育成会の方から声をかけることができなくなかった。待っているだけでは動かないので、こちらからアプローチしていくことが重要であると考えます。
- ・こういったPTAや育成会の活動も、細々でも続けていけば、この活動を見た保護者や子どもたちにも、いずれ本活動に関わってもらえると思う。

<委員の発表⑧>

○委 員：

<概 要>

- ・私は学校施設開放運営協議会（以下、運協とする。）にて活動をしている。運協では、学校施設管理や地域生涯学習の企画及び運営を実施している。運協の活動の中で感じた課題について発表をする。

<課題に感じたこと>

- ・私は運協で実施する事業は自由度が高いと思い活動を始めた。イベントなどを企画するにあたり利用者にアンケートをとって要望の多いテーマを企画するが、日時が決まっていると参加率が低い場合がある。
- ・一方で、バレーボール大会などは盛況となっている。参加者の子どもたちも来るため、保育室をつけて開催している。
- ・利用者からの声としては、もっと体育館を解放して欲しいという意見が多い。他にも、サークルを作るほどではないが家族でバトミントンをやりたいなど、そういった利用目的もある。そのような、大人向けに施設を開放する仕組みを作ることができないかも検討している。
- ・運協の事業の発信について、子どもたちがいない地域には情報が伝わらないという課題がある。
- ・他には、アルバイトを始めることに対して、まだ心理的にハードルが高いというひきこもりの方に、運協のサポーターとして手伝っていただくという取組もしている。
- ・また、若い世代が何を学びたいかについて自身の子どもにヒアリングしたところ、資格取得などスキルアップのために学びたいという意見が多かった。

<委員の発表⑨>

○委 員：

<概 要>

- ・私は教員として学校現場における経験がある。その経験を通じて感じた、現役世代の地域学校協働活動への関わりに関する課題について発表する。

<地域学校協働活動について>

- ・地域と学校が協働し、地域全体で子どもたちの成長を支えていく活動として、地域学校協働活動は推進されている。
- ・活動の具体例としては、学校支援活動、放課後子供教室、キャリア教育、学校避難所運営会議、コミュニティ・スクールなどが挙げられる。

<課題に感じる事>

- ・学校は外にも内にも開かれていないと言われており、特に外に開いた活動をしていく必要があると考える。私が在籍していた学校では、主体は地域の方々と、現役世代の方を講師として招き、学校も協力しながらスポーツ系や文化系の教室を開催していた。
- ・こういった地域主体の教室や、校内清掃や花壇整備といった学校支援活動についても、地域コーディネーターの方を介しながら呼びかけをし、現役世代の方に集まってもらっていた。こういった地域と学校をつなぐ方の存在も重要だと思う。
- ・現役世代の方も、教室を通じて子どもたちから挨拶や感謝してもらうことでやりがいを感じている。

<委員の発表⑩>

○委 員：

<概 要>

- ・私は小学校でおやじの会の事務局として活動している。その活動の中で感じた課題について発表をする。

<おやじの会の活動について>

- ・活動の意義としては、地域コミュニティの活性化、子どもの成長を通じた自身の成長、キャリア教育支援などがある。

- ・メンバーに本活動について意見を伺うと、以下のような意見が挙がった。
- ・気軽に出入りすることができる活動であることが大事である。
- ・子どもと関わることができる貴重な機会である。
- ・達成感があると活動を継続することができる。
- ・自分自身がキャリア教育の講師を務めることで、新たな気づきを得ることができる。

<活動事例紹介：子どもアントレプレナーシップ>

- ・子どもたちに企業経営ゲームを実施してもらう。子どもたちが紙コップを製作し、製作に必要な道具や材料の仕入れ、収益計算などを行う。おやじの会のメンバーが販売先として、適正な判断で取引を行う。
- ・このゲームを通じて、子どもたちには課題解決能力、チームワーク、リーダーシップなどの能力の向上に役立ててもらおう。

<課題に感じること>

- ・活動の中で課題だと思うことは以下の通り。
 - ・リーダー、事務局に依存した運営となってしまう。
 - ・モチベーションを維持すること。活動に慣れてくると達成感が得られなくなってしまう。
 - ・高齢世代や若者世代とのコミュニケーションのとり方。

<今後について>

- ・地域活動が学びの場となり、それが生涯学習に繋がっていくようにしていきたい。
- ・この活動が、学校、地域、家庭をつなぐ役割を果たしていくこと。
- ・自分たちで活動を継続することができる、持続可能な仕組みづくりの検討。

<委員の発表⑩>

○議 長：

<概 要>

- ・「リカレント教育」の考え方について発表をする。

<リカレント教育の本来の意味と日本における意味>

- ・教育の従来形態は「フロントエンド型」であり、人生の初期で学びを終えることを意味する。
- ・一方で、「リカレント教育」とは、何度も学びの場に戻ることを意味する。本来の意味としては、一旦フルタイムの仕事を辞めて、教育機関などで学び直すことを指す。
- ・しかし、日本においては、一度仕事を辞めてしまうと再びフルタイムの仕事に復帰することが難しいという実情がある。そのため、仕事をしながら学ぶという意味合いに変わってきている。

<課題に感じること>

- ・本来のリカレント教育の意味合いである、「一旦仕事を辞めて、教育機関などで学びなおして人生を充実させる」と、日本における「仕事をしながらスキルアップのために学ぶ」に意味合いのずれが生じている。
- ・日本のリカレント教育において、仕事を抱えながらどのように学ぶ時間を確保していくのかが課題であると思う。

<発表についての感想や意見など>

○議 長：これまでの委員各位の発表から、活動と仕事との両立、人間関係の難しさ、参加者の負担の大きさなどが指摘されている。これらに共通することとして、現役世代に何かしらの負担があり、それを減じる、すなわち「緩い」仕組みづくりが重要であると思われる。

○議 長：他の委員から、各発表について何か意見はあるか。

○委 員：今後の議論の対象者をどうするか考えた方が良く考える。委員各位の発表を聞くと、子どもがいる親世代に関する話が多い印象を受けた。子どもがいない方々を今後の議論の範囲に入れるかなどを決めた方が良く思う。

- 議 長：現役世代といっても、80代、90代で現役の方もいるので、対象者を考えるのは重要だと考える。
- 議 長：例えば学校関係の活動において、子どもがいるかいないかに関係なく、活動に参加してもらった事例はあるのか。
- 委 員：私が在籍する学校では、保護者以外にも、高校生や大学生の方が、学校が終わった後で参加する場合もある。子育て世代だけが参加している訳ではない。
- 委 員：公民館の事業計画を見ると、現役世代を対象とした講座では、年齢的には20代から50代としている。
- 委 員：・私は生涯学習を、将来的な地域の課題を解決するための、まちづくり戦略の観点でとらえている。
・議論の対象者を、年代を軸に考えてしまうと、仕事に必要な学び、学校に必要な学びという教養の観点になってしまう。そこで、課題を軸にして考えると、課題解決のヒントを得るための学習という視点に変わると考える。
・まちづくりの観点で例示すると、例えば、地域活動に対して、新たに参加してくれるような人との関わりをいかに増やすかという課題があり、それに対して、偶然の出会いを促すような場づくりを目指す、といった考え方ができる。
・年代ではなく、課題を軸に考えることで、例えば学校施設をもっと開放して欲しいという要望に対して、別の団体に事業として受け渡すなど、違う観点で解決策が議論できると考える。
- 委 員：委員各位の発表を聞いて、以下3点の意見を述べたいと思う。
①PTAの保護者たちが主体的に活動することができなくなっているという話があったが、コロナ禍やSNSの普及以降、若い世代と関わっている中でも同様のことを感じている。緩く参加できたとしても、参加者本人の学ぶ姿勢次第で結果が変わると思う。
②対象者の年代を考えるという話があったが、参加者に最終的には活動の担い手になってもらいたいのか、一度でも講座に参加してもらえば良いのか、ゴールを明確にすることも重要だと思う。
③武蔵野美術大学と日本総合研究所における事例で、目的を持たない場を設けるという取組がある。目的もなく集まることを続けていき、3年目には、参加者が自発的に地域の課題解決について話をするようになったと伺った。そういった目的のない集まりを設けても面白いと思った。
- 委 員：活動への参加の緩さに関して、部活動の民間委託の流れの中で、文化部の人気急伸している。週1，2回の活動であり、後は自分の自由時間を持つことができる、そういった緩さが求められているのだと思う。
参加者の主体性については、自ら活動に関わりたいと思う、内発的な動機が大事だと思う。
- 議 長：委員全員の発表が完了したため、本定例会ではここまでとしたい。次回はこれまでの発表内容をふまえて、研修の要否や課題対策の議論に進みたいと思うがよろしいか。

一同、異議なし

次回会議

日時 令和8年7月24日（金）午後2時

場所 田無第二庁舎5階会議室